

シクリスムエコーNo.104 2004年1月号

年頭に寄せて	2	2003年世界室内自転車競技選手権	12
アテネオリンピックに向けての選手強化について	2	競技大会結果	13
ACCトラック アジア カップ 2003	3	UCIニュース(2004年UCIカレンダー抜粋)	15
第9回全日本シクロクロス選手権	6	日本体育協会C級スポーツ指導員養成講習会(後期) ..	16
2003 ツール・ド・おきなわ	8	「2004年アジア自転車競技選手権」日本開催決定! ..	16
2003 日韓対抗学生自転車競技大会	9	連盟の動き	16
2003 ツール・ド・台湾	10	1月の主な予定	16



年頭に寄せて



財団法人 日本自転車競技連盟
会長 岩楯 昭一

平成16年の年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は本連盟の諸事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年は連盟創立70周年を迎える喜ばしい年であります。本連盟の前身となる日本サイクル競技連盟(後の日本アマチュア自転車競技連盟、その後アマとプロが統合し現在に至る)が1934年(昭和9年)12月12日に設立されました。

また、日本では5年ぶりにアジア自転車競技選手権大会(トラック・ロード)が4月に三重県四日市市で開催されます。この大会は、5月に行われるトラックの世界選手権大会へ繋がる重要な大会であります。

そして、8月には、いよいよ4年に一度のオリンピック競技大会が五輪発祥の地であるアテネ(ギリシャ)で開催されます。

オリンピックでの自転車競技の歴史は古く、1896年(明治29年)第1回近代オリンピック競技大会より実施され、ヨーロッパが中心となり自転車競技の歴史が刻み込まれて来ました。

オリンピックにおける自転車競技のメダル獲得は、1984年ロサンゼルス五輪で坂本勉選手が男子スプリントで初の銅メダルと、1996年アトランタ五輪で十文字貴信選手が男子1kmタイムトライアルで2つ目の銅メダルを日本にもたらせてくれました。

また、2000年シドニー五輪より日本で生まれたケイリンがオリンピック種目として採用され、そして2008年北京五輪では、BMXが新種目として採用されることがIOC(国際オリンピック委員会)にて決定されるなど、自転車競技を取り巻く環境も変化を続け、新たな挑戦が続きます。

本連盟は、オリンピック出場枠獲得とメダル獲得の大きな目標を掲げ、関係者一同精力を傾ける所存であります。

どうか皆様方の更なるご支援とご協力と、そして日頃より練習に励んでいる選手への暖かいご声援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、自転車競技の普及発展と皆様の健康とご多幸をお祈り申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。

アテネオリンピックに向けての選手強化について



強化委員長 穴田 勝彦

新年明けましておめでとうございます。昨年中の選手強化については、関係各位のご支援・ご協力に心から感謝を申し上げます。

アテネオリンピックの予戦は、もう目前に迫っています。これから短期間で世界のトップレベルに到達するためには、あらゆる可能性を希求していかなければなりません。

現在、日本のオリンピック出場枠は、エリート女子の500mTT、エリート男子の個人ロード2名、男子MTBクロスカンントリー1名の参加資格を獲得している状況であります。

今後は、この状況を踏まえてトラック競技、ロード女子競技においての出場枠獲得のため、最善の努力をする所

存です。

ロード女子については、2004年4月30日付国別ランキング21位以内、個人ランキング100位以内に与えられることになっており、沖選手が最も近い位置におり、大変期待しているところであります。

トラック競技においては、昨年の世界選手権大会においてケイリン種目で5p、スプリント種目で3p、チームスプリントで4pを取得しており、2004年に開催されるワールドカップ1戦~4戦のポイントを加算して、2004年世界選への出場枠を獲得することを最大の目標として取り組まなければなりません。また、1kmTT、ポイント種目においても個々の特性を生かした強化策を図っていく必要があります、選手個々に期待するところが大きいです。

まずは、アテネオリンピックへの出

場枠であり、新ナショナルチームを中心にコーチングスタッフと医科学スタッフが一体となり、SRM等による一人一人のデータ管理の把握や心肺機能の向上を図るトレーニングメニューの分析、世界に通用する筋力を向上させるウエイトトレーニング、メンタルトレーニング、日常の健康管理の把握、家族とのコミュニケーション等を図り、選手が最高のコンディションで諸大会に参加できる環境作りが私の最大使命と思っているところであります。

アテネ五輪への道は険しく厳しいものと思いますが、選手個々のアテネへの強い意志と熱い思いが結集することによって、道は開けると思っています。

選手諸君、スタッフの益々の協力を願うものであります。

最後に、全国の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

ACC[®] トラック アジア カップ 2003



タイラウンド日本選手団

Thailand Round
November 8-9, 2003



4km個抜優勝の坂口

女子スプリントと
500mTT優勝の太刀川(左)

「ACCトラック アジア カップ2003」は、第1戦タイラウンドを11月8～9日、ファイナルラウンドを日本で11月12日～13日に東京・京王閣競輪場にて開催された。

今年初開催となる本大会は、世界規模でのトラックレースの普及と発展を掲げた国際自転車競技連合(UCI)の意向を受け開催された。当初5月にタイ、マレーシア、日本のシリーズ3戦を予定していたがSARSの影響で延期となっていた。

第1戦タイラウンドは、バンコクのフアマーク自転車競技場で行われ、気温37℃以上と日本の真夏以上の暑さの中のレースであった。参加国は日本とタイの2カ国のみとなり、寂しい大会となった。結果はほとんど上位を日本チームが勝ち取ったが、女子選手の出場が1名ということもあり、総合得点ではタイに負けてしまった。

続いて行われた第2戦日本ラウンドは、大韓民国、タイ、チャイニーズ・タイペイ、日本の4カ国・41名が参加し大会も盛り上がった。男子では、小嶋敬二選手がスプリントとケイリンで二冠を達成するなど活躍を見せ、総合成績では日本がタイに逆転し、大差で第1回のアジアカップを獲得した。来年のアテネ五輪出場枠獲得に向けて弾みをつけた大会となった。

ACC Track Asia Cup 2003

Japan Round

November 12-13, 2003

男子スプリント優勝の小嶋(左)と永井



チームスプリント優勝日本チーム



1位 小嶋敬二

2位 坂本 勉

3位 CHON Young Kyu

5位 TANA Dech

男子ケイリン決勝



4km個抜優勝の内田



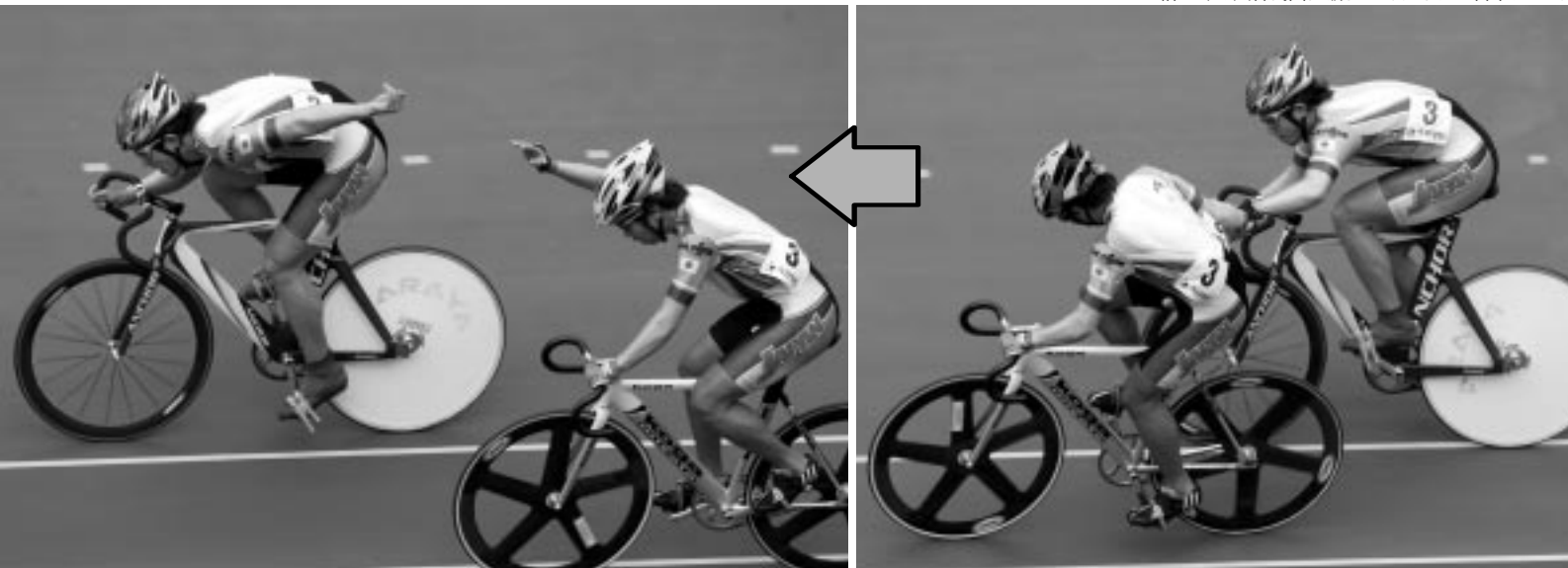
1kmTT2戦とも優勝の大森



団抜優勝の日本チーム



女子スプリント決勝
1位 LEE Min Hye(右)
2位 KIM Yong Mi



[競技結果]

< タイラウンド >

男子1kmタイムトライアル

1	大森 慶一	JPN	1:06.752
2	MANEEPONG Panupong	THA	1:10.487

男子スプリント

1	永井 清史	JPN
2	前反祐一郎	JPN
3	KHANTHONG Korawig	THA

男子ケリツ

1	山口 幸二	JPN
2	前反祐一郎	JPN
3	KHANTHONG Korawig	THA

男子4km個人追抜競走

1	坂口 博	JPN	4:57.548
2	MANEEPONG Panupong	THA	5:02.877

男子ホィトルス(24km)

1	飯島 規之	JPN	81 p
2	飯島 誠	JPN	49 p
3	MAHAWONG Prajak	THA	28 p

男子マ'イツ

1	坂口 博 / 西谷泰治	JPN	30 p
2	RUNGMANAKIT/BUALOY	THA (-7)	18 p

男子チームスプリント

1	タイ	1:04.394
2	日本 前反・大森・永井	-

男子4km団体追抜競走

1	日本 飯島規・飯島誠・坂口・西谷	
2	タイ	OVT

女子500mタイムトライアル

1	太刀川麻也	JPN	38.621
2	RATTANASOMBAT Vasimon	THA	42.015

女子スプリント

1	太刀川麻也	JPN
2	CHAN-IN Yuwadee	THA
3	RATTANASOMBAT Vasimon	THA

女子3km個人追抜競走

1	NONTASIN CHANPENG	THA	4:16.844
---	-------------------	-----	----------

女子ホィトルス(20km)

1	CHAPOOKAM Monrudee	THA	42 p
2	NONTASIN Chanpeng	THA	38 p

< 日本ラウンド >

男子1kmタイムトライアル

1	大森 慶一	JPN	1:06.712
2	LEE Myung Hyun	KOR	1:07.750
3	LIU Chin-Feng	TPE	1:08.410
4	RUMPUANG Ditthakorn	THA	1:09.719

男子スプリント

1	小嶋 敬二	JPN
2	永井 清史	JPN
3	LEE Myung Hyun	KOR
4	CHON Young Kyu	KOR
5	LIN Chih-Hsun	TPE
6	BUMRUNGVECH Niphon	THA

男子ケリツ

1	小嶋 敬二	JPN	10.848
2	坂本 勉	JPN	
3	CHON Young Kyu	KOR	
4	LEE Myung Hyun	KOR	
5	TANA Dech	THA	
6	LIN Chih-Hsun	TPE	

男子4km個人追抜競走

1	内田 慶	JPN	4:44.019
2	JANG Sun Jae	KOR	4:50.173
3	HUANG Chi-Sheng	TPE	5:06.914
4	RUNGMANAKID ATIT	THA	5:18.865

男子ホィトルス(30km)

1	CHOI Soon Young	KOR	73 p
2	西谷 泰治	JPN	25 p
3	窓場加乃敏	JPN	25 p
4	SONG Kyung Bang	KOR	11 p
5	RUNGMANAKID ATIT	THA	-39 p
6	HUANG Chi-Sheng	TPE	-40 p

男子マ'イツ(40km)

1	大韓民国	48 p
2	日本 西谷・伊藤	(-2) 24 p
3	タイ	(-13) 19 p

男子チームスプリント

1	日本 坂本・大森・永井	1:17.523
2	チャイ・ス'タイ'イ	1:24.275
3	タイ	1:25.169

男子4km団体追抜競走

1	日本 飯島規・窓場・内田・西谷	
2	タイ	OVT

女子500mタイムトライアル

1	太刀川麻也	JPN	37.500
2	KIM Yong Mi	KOR	37.733

女子スプリント

1	LEE Min Hye	KOR
2	KIM Yong Mi	KOR
3	太刀川麻也	JPN

女子3km個人追抜競走

1	HAN Song Hee	KOR	4:08.601
2	HUANG Ho-Hsun	TPE	4:15.609

女子ホィトルス(16km)

1	CHOI Hye Kyung	KOR	107 p
2	HAN Song Hee	KOR	28 p
3	HUANG Ho-Hsun	TPE	25 p

ナショナルチームに
飯島規之選手が選考される

11月13日平成15年度第7回選手強化本部会にて飯島規之選手をナショナルチーム<トラック中長距離>に選考することを決定したのでお知らせします。現在ナショナルチームのメンバーは11名。トラック中長距離は飯島誠選手と飯島規之選手の2名となった。



飯島 規之 イイジマ ノリキ
JPCA・JPCU埼玉(1966年生)



第9回全日本シクロクロス選手権



男子優勝の辻浦

一時はトップは走っていた三船(中央)と辻浦



2位小坂(中央)と三船

左から、2位小坂、1位辻浦、3位三船



男子スタート





女子スタート



トップを走る真下と唐見



一時はトップは走っていた南部(中央)



追いつかる唐見を振り切って
真下のフィニッシュ

シクリスムエコーシリーズ 第4戦結果
(11/30 滋賀・野洲川)

男子U-23 (22.00km)

- 1 辻浦 圭一 BRIDGESTONE 55:58
- 2 三船 雅彦 ミヤタパルシング +2:07
- 3 小坂 正則 スコキャノンダール +2:30

男子U23 (22.00km)

- 1 辻 善光 立命館大学 1:01:53
- 2 山本 聖吾 長野高専 1:03:34
- 3 飯塚 隆文 スコレーシング 1:04:03

女子 (13.75km)

- 1 真下 正美 SY-NAK SPECIAL.44:28
- 2 唐見実世子 BIKE SYSTEM +0:53
- 3 高橋いづみ SY-NAK SPECIAL.+0:54



左から、2位唐見、1位真下、3位高橋

[競技結果]

第9回全日本シクロクロス選手権
(12/14 長野・佐久・長野牧場)

Elite Men (25.94km)

- 1 辻浦 圭一 BRIDGESTONE 1:02:43
- 2 小坂 正則 SUWAKO CANONN. +1:28
- 3 三船 雅彦 MIYATA SUBARU +1:59
- 4 小平 幸永 NIPPON HODO +2:08
- 5 池本 真也 WAKOU KIKI +2:09
- 6 大原 満 AISAN +3:35
- 7 堂城 賢 GARY FISHER +3:46
- 8 山本 和弘 CANONNDALE J. +3:58
- 9 白石 真悟 SHIMANO DRINK. +4:28
- 10 丸山 厚 SUWAKO RACING +4:55

Elite Women (14.34km)

- 1 真下 正美 sy-Nak SPECIALIZED 42:06
- 2 唐見実世子 BIKE SYSTEM +0:02
- 3 高橋いづみ sy-Nak SPECIALIZED +0:21
- 4 南部 博子 TREK Japan +1:24
- 5 深井 薫 GARY FISHER +1:25
- 6 志村みち子 AZUMINO +2:26
- 7 伊藤真里子 TEAM LUPAN +3:18
- 8 酒井 真清 Testach Racing +3:35
- 9 後藤久美子 Seeders +6:22
- 10 坂田 佳子 TEAM POLPO +9:52



JCF ナショナルチーム強化合宿

11月28日～12月4日の7日間、静岡県修善寺のサイクルスポーツセンター250mトラックにおいて、JCFナショナルチームの短・中長距離の強化合宿が行われた。来年のアテネオリンピックに向けての合宿のため、各メディアからの取材もはいいり、にぎやかな合宿となった。



2003 ツール・ド・おきなわ

第15回記念大会2003ツール・ド・おきなわは、まだ暑さの残る名護市で11月9日に行われた。朝から大粒の雨が降るが気温は24℃と、寒さはさほど感じない。

朝7時にスタート。直後から細かなアタックが続き、48kmの源河を過ぎる頃には25名が後続との差を広げ始める。最初の山岳ポイントの入り口である70kmの与那ではその差は約3分となり、この時点で優勝争いは先頭グループに絞られてしまった。

普久川ダムへの最初の登りを終えて先頭グループは19名となり、後続との差は最大で4分ほどついてしまう。119km地点のウテンダトンネルにおいて後続集団内で大量落車が発生し、約45名の選手のほとんどが巻き込まれてしまった。

2回目の普久川ダムへの登りで先頭グループの動きが激しくなる。下りに入って、後続集団から一人追走していたUSAチャンピオンのマコーマックが追いついてくる。海岸線に出たところでライジン(USA)が先頭、その後阿部(シマノ)、ウイリー(IRL)、ムニョス(ORBEA)が追走し、最大で先頭と3名

の差は1分40秒、第三グループまで2分30秒となるが、160km地点で4人は捕まり振り出しに。

176kmの有銘からの登りで、マコーマック、ムニョス、真鍮(ミヤタ)、ウォン(香港)がアタック。その後をマッキャン(IRL)が追走する。後方からは岡崎(日鋪)阿部が懸命に追走し、先頭から遅れたウォン、マッキャンを一気に抜き去り先頭3名に追いつく。阿部はここで遅れウォンと第2グループとなり残り8kmで先頭4名との差は1分20秒、少し遅れてマッキャン、2分20秒で日置(キナン)、田代・福島(BS)、野野(シマノ)、別府(日鋪)となり優勝争いは4名に絞られる。

先頭集団では、マコーマックが何度も揺さぶるが残り4kmで岡崎がアタック。しかし後続3名との差は10秒ほどのまま縮まらない。ゴール手前で優勝を確信した岡崎は両手を上げて、うれしい「おきなわ」初優勝となった。まさに激走という言葉が当てはまる岡崎の勝利であった。

最後に衆議院選挙投票日等の影響を乗り越えての開催にあたり、実行委員

会の努力と関係機関・警察の協力で敬意を表したい。(菊池 津根徳)

[競技結果]

男子チャロールス(200km)

1	岡崎 和也	JPN 日本舗道	4:54:45
2	MUNOS Guillem	ESP ORBEA	4:54:57
3	MCCORMACK Mark	USA USA	4:54:57
4	真鍋 和幸	JPN MIYATA	4:54:57
5	阿部 良之	JPN SHIMANO	4:55:54
6	WONG Kam Po	HKG HKG	4:55:54
7	MCCANN David	IRL IRELAND	4:56:56
8	日置 大介	JPN KINAN	4:57:10
9	田代 恭崇	JPN ANCHOR	4:57:21
10	福島 晋一	JPN ANCHOR	4:57:23

女子国際レース(50km)

1	MOORE Amy	CAN カガ	1:22:06
2	KROEPSCH Lara	USA USA	1:25:10
3	中山 朋子	JPN スパ・刈 初	1:25:10
4	SWIFT Collette	IRL Ireland	1:25:10
5	HUANG Ho-Hsun	TPE TPE	1:25:10
6	高橋いづみ	JPN SY-Nak	1:25:10
7	西 加南子	JPN スパ・刈 初	1:25:10
8	石井 麻実	JPN なるしま	1:25:10
9	南部 博子	JPN トック・J.	1:25:10
10	小野山恵美	JPN equip U	1:25:10

アジア国際レース(120km)

1	LEE Hsu-Fan	TPE Taiwan	3:01:14
2	渡辺 将大	JPN 前橋育英高	3:02:22
3	CHEN Tsun-Kuei	TPE Taiwan	3:02:22
4	WU Kin San	HKG Hong Kong	3:02:22
5	CRICHTON Brandon	CAN Canada	3:02:41
6	BUYERS Chad	USA USA	3:02:41
7	長江 寿也	JPN 八戸工業高	3:02:41
8	飯塚 航	JPN 前橋育英高	3:02:44
9	相川 将	JPN 川越工業高	3:04:26
10	中村 由広	JPN 学法石川高	3:06:58



男子の表彰



女子の表彰



SHIMANO

The 100th Anniversary Tour de France
Lance Armstrong
United States Postal Service Team, USA
Wins Fifth Consecutive
Riding New DURA-ACE

DURA-ACE

www.shimano.com

2003 日韓対抗学生自転車競技大会



今回で9回目となる本大会は、韓国の全州(チョンジュ)自転車競技場で11月12日のみの予定であったが、雨の影響で「12日午後～13日午前」という日程へ変更になった。

現地入りしてからは、雨で練習が思うように出来ず、バンクに慣れることすら出来ずに競技することを余儀なくされてしまった。

競技はスプリント予選から始まり、悪コンディションの中、わが日本チームは実力が発揮できず平凡なタイムに終わる。しかし、そんな中でも韓国大学生の李(韓国体大)は11秒005の好タイムをマークした。スプリントは全カテゴリーを韓国が制した。

個人追抜競走は、時間の関係で当初の予定を変更し、勝ち上がり方式ではなく、いきなり順位決定戦で競技することとなった。タイムは平凡だが全カテゴリーとも日本チームが制した。

タイムトライアルは、スタートでほとんどの選手がスリップし好スタートが切れない中で、男子は大学・高校とも1位は譲らず制することが出来た。

チーム競技は、大学生が団体追抜、高校生と女子はチームスプリントで対戦した。大学生は日本記録保持者の1人でもある黒木(法大)を中心に、韓国チームを圧倒する走りで快勝。高校生のチームスプリントも韓国チームの3番手がスタートミスをしたこともあるが、3人の息が合って2秒以上差をつけゴールした。しかし女子は、0秒068の僅差で敗れてしまい誠に残念であった。

ケイリンは大学・高校のスプリント優勝者に1・2位を決められ、脚の違いを見せつけられた。

ポイントレースは、女子が10km、男子は大学と高校の選手全員で24kmの距離で競技した。女子は萩原(伊勢崎女高)が全ての得点周回に絡み42点で、2位を25点引き離し圧勝。男子も守澤(大曲農工)が盛(日大)のアシストを受け4ラッ

プアップを達成し、113点の高得点で2位に56点差をつけて、圧倒的な強さで優勝した。守澤は個人追抜きとポイントレースの2冠を達成し、本大会の最優秀選手賞も獲得した。

国別対抗成績は大学生と高校生が日本チーム、女子は韓国チームに軍配が上がり、総合成績では日本チームが優勝した。

雨の影響でほとんどバンクに乗れず、特に短距離選手には悔いの残るレースだったかもしれないが、今回の遠征で選手諸君の今後ますますの成長に期待したい。(高体連 塚崎 邦嗣)

[競技結果]

男子ケイリン

- LEE WUK DONG KOR 韓国体育大学
- PARK SOO HYUNKOR 木川高校
- 川村 崇 JPN 早稲田大学
- 盛 一大 JPN 日本大学
- 屋良 朝晴 JPN 日本大学
- 柴崎 淳 JPN 朝明高校

男子ポイントレース(24km)

- | | | |
|-----------------|----------|-------|
| 1 守澤 太志 | JPN 大曲農高 | 113 p |
| 2 盛 一大 | JPN 日本大学 | 57 p |
| 3 JEONG JAE WAN | KOR 韓国体大 | 56 p |
| 4 佐藤 佑一 | JPN 順天堂大 | 28 p |
| 5 菅田 壱道 | JPN 仙台商高 | 23 p |
| 6 黒木 裕介 | JPN 法政大学 | 11 p |
| 7 屋良 朝晴 | JPN 日本大学 | 10 p |
| 8 網谷 竜次 | JPN 高松工芸 | 8 p |
| 13 柴崎 淳 | JPN 朝明高校 | 2 p |
| 川村 崇 | JPN 早稲田大 | DNF |
| 石川 雅望 | JPN 前橋工高 | DNF |

<男子大学部>

スプリント

- LEE WUK DONG KOR 韓国体育大学
- 川村 崇 JPN 早稲田大学
- 屋良 朝晴 JPN 日本大学
- KIM WEON JEONGKOR 昌原大学

1kmタイムトライアル

- 屋良 朝晴 JPN 日本大学 1:10.676

- 川村 崇 JPN 早稲田大 1:11.344
- KIM WEON JEONGKOR 昌原大学 1:11.800
- LEE WUK DONGKOR 韓国体大 1:12.501

4km個人追抜競走

- 黒木 裕介 JPN 法政大学 5:12.572
- JEONG JAE WAN KOR 韓国体大 5:13.633
- 佐藤 佑一 JPN 順天堂大 5:15.600
- KIM GEE HYUNG KOR 安東大学 5:39.700

4km団体追抜競走

- 日本 黒木・盛・佐藤・屋良 4:54.341
- 韓国 5:12.298

<男子高校部>

スプリント

- PARK SOO HYUNKOR 木川高校
- PARK MIN O KOR 錦山高校
- 柴崎 淳 JPN 朝明高校
- 網谷 竜次 JPN 高松工芸高校

1kmタイムトライアル

- 菅田 壱道 JPN 仙台商高 1:10.575
- KIM TAE DONG KOR 陰城高校 1:10.873
- PARK MIN O KOR 錦山高校 1:11.716
- 網谷 竜次 JPN 高松工芸 1:13.286

3km個人追抜競走

- 守澤 太志 JPN 大曲農高 3:49.621
- HWANG IN HYEOKKOR 東大田高 3:50.822
- 石川 雅望 JPN 前橋工高 3:58.605
- HONG HYUN GEE KOR 昌原機械 4:16.602

チームスプリント

- 日本 柴崎・網谷・菅田 1:08.347
- 韓国 1:11.850

<女子>

スプリント

- YOO JIN AH KOR 全南美容高校
- JEONG EUN HYEAKOR 襄陽女子高校
- 遠藤 友子 JPN 鹿屋体育大学
- 篠崎 新純 JPN 明治大学

500mタイムトライアル

- | | | |
|-------------------|----------|--------|
| 1 YOO JIN AH | KOR 全南美高 | 38.013 |
| 2 KIM SOO HYUNKOR | 全南美高 | 39.205 |
| 3 遠藤 友子 | JPN 鹿屋体大 | 39.566 |
| 4 岡 希美 | JPN 前橋育英 | 40.638 |

2km個人追抜競走

- 萩原麻由子 JPN 伊勢崎 2:45.734
- YOOK JEE YOUNGKOR 仁川体 2:51.275
- 中村 珠藻 JPN 順天堂 2:54.209
- KANG EUN MEE KOR 仁川体 2:59.883

チームスプリント

- 韓国 1:17.351
- 日本 岡・遠藤・篠崎 1:17.419

ポイントレース(10km)

- 萩原麻由子 JPN 伊勢崎女子 42 p
- 中村 珠藻 JPN 順天堂大学 17 p
- YOO JIN AH KOR 全南美容高 16 p
- JEONG EUN HYEAKOR 襄陽女子高 8 p
- 遠藤 友子 JPN 鹿屋体育大 5 p
- 岡 希美 JPN 前橋育英高 4 p
- 篠崎 新純 JPN 明治大学 1 p

2003 ツール・ド・台湾



日本選手団

11月17日成田9時40分発中華航空107便で台湾に出発。目的地高雄には14時25分に到着。第1ステージとなる Bao-Lai Spa & Resort Hotelには、17時30分によやくたどり着いた。

日本との時差は1時間有り、早々に自転車を組み立て夕食をとった。

翌18日は、第1ステージの周回コースを軽く2時間試走を行い明日からのレースに備えた。

今回のナショナルチームは真鍋和幸・中川康二郎(ミヤタ)、福島康司(JPCA)のエリート3人、盛一夫(日本大学)、岩本竜太郎(京都産業大学)、土井雪広(法政大学)の学生3人でこの大会に挑んだ。メカニックには鬼原さん、マッサージは酒井さん、通訳は中島さんの4人で台湾1周のライダーサポートに当たった。

参加11チーム56人。

11月19日(晴れ)第1ステージ

20km x 5 = 100km (Bao-Lai Circuit)
真鍋ステージ優勝。

後半 Kazem (Giant) とうまくアタックが決まり1分47秒の差をつけゴール。

「若手とエリートで走ったレースは、ナショナルチームとして成績を上げつつ若い選手をいかに経験させるかが課題であった。チーム最年長の私が優勝したことは、チームを育てる上で大きな成果だったが、それは、明日からの過酷なレースを意味していた。(真鍋)

11月20日(晴れ)第2ステージ

189km (Maulin ~ Taitung)
スタート53人。福島3位。真鍋イエロー4秒で死守。チーム総合2位。

ゴール10km手前で Erle (Merida) と Andreyev (Dynamo) がぬけだし福島がそれを追う。

「大和魂で一丸となり戦う。未来の若者に、エリート軍団3人の意地みせる。でもまだ勝てぬ結果に引退は、当分先送り。(福島)

11月21日(曇晴れ)第3ステージ

169km (Taitung ~ Hualien)
スタート51人。中川惜しくも5位。真鍋3秒差イエロー死守、チーム総合3位。岩本無念リタイア。

130km付近の山岳コースで集団が割れ Kottula (Merida) と Wong (HKG) から4人が抜ける。

「真鍋さんがリーダーシップ、そのため序盤は、アタックを潰す動きをとる。しかし自分は昨日から調子が悪く、後方に位置し何もでき

なかった。50km過ぎボトル渡しのサポートを最後に75km過ぎから気分が悪くなりリタイアしてしまった。今回のレースは、思うように走れず悔しかった。しかしその後チームサポートという形で働く中で、日本チーム、大会スタッフ、他のチームとコミュニケーションをとる中で一回り大きくなれた気がします。(岩本)

11月22日(雨)第4ステージ

162km (Hualien ~ Northeast Coast)
スタート49人。96kmのデモンストレーション走行。前日のミーティングで前半のコースが雨のため危険との判断で後半66kmでのレースに変更。真鍋イエロージャージキープ。

「悪天候のため66kmでのレースとなりこのため学生には、中々体験できないスピードレースを体感することになりこの経験を来シーズンに活かし頑張りたい。(盛)

11月23日(晴れ)第5ステージ

143km (Taipei ~ Shih-Kang Dam)
スタート49人。福島無念2位。中川4位。集団が2つに割れ真鍋が後方におかれ11分差空けられイエロー手放す。福島が総合3位。チーム総合も3位。KOM福島3位

「バレード走行中にパトカーが道を間違えるというアクシデント台湾スタイルにレースの緊張が解け楽しく走ることができた。(中川)



真鍋第1ステージ優勝(中央)

11月24日(曇晴れ)第6ステージ

3km x 20=60km(Changhua Circuit)
スタート49人。真鍋再び表彰台2位。盛も9位。土居も14位学生頑張る。福島3位キープ。チームも3位。

「60kmのクリテ、スタート直後に中川がコントロールに入り、自分と4人の逃げが決まる。昨日大きく遅れた為なんのマークもされず簡単に逃げに乗ることができステージ2位になったがもう少しスプリント力がほしい。(真鍋)

11月25日(晴れ)第7ステージ

115km(Sun Moon ~ Tataka)
スタート49人。日本総合3位に踏みとどまる。福島プレーキ、個人5位、中川6位。KOMも7位後退。阿里山は高かった。ワンカンポーも失速。

「標高差2000mのこのステージは、予想以上に過酷で前半のアシスト作業も含めると自分の力では、楽しく登ることはできずとてもつらい第7ステージになりました。(土井)

11月26日(晴れ)第8ステージ

3km x 25=75km(Kaohsiung Love River Circuit)
スタート44人。残念47秒の逆転、チーム総合4位に下がる。カザフスタンのチームが3位。個人総合5位福島、6位中川、8位真鍋、35位盛、44位土居、リタイア岩本。

中盤にレースが動きDinamo(Kaz)チームが3人前段に加わりペースが上がる。真鍋、中川の2人がペースを崩すもセカンドグループとの差は開く、福島、盛、土居、が追いかけるがペースを乱され2分22秒差をつけられフィニッシュ。

「総合優勝のみを目指してきたがDinamoに団体3位の座を意表をつかれ失うも、攻めの姿勢で走り通したから日本チームに悔いは無いと思う。来年は、優勝するぞと決意した。勇気づけてくれたスタッフの方々に感謝の気持ちでいっぱい謝謝(福島)

今回のツール・ド・台湾は、台湾政府観光局のバックアップが有り、コースも観光地めぐりのなものと、宿泊施設もスパリゾートホテル等にステイでき台湾自転車連盟の力の入れように感激した。終わりに台湾車連の李開志、李開光兄弟、王美香副書記長さんに大変お世話になり日本チームも楽しく8ステージを走り終えることができた。

(監督 福田 公生)

[競技結果]

第1ステージ(100km)

1	真鍋 和幸	JPN	Japan	2:34:46
2	KAZEMI SARAI Ahad	IRI	Giant	2:34:46
3	KOTTULA Juergen	GER	Merida	2:36:27
7	福島 康司	JPN	Japan	2:37:02
12	中川康二郎	JPN	Japan	2:39:10
24	盛 一大	JPN	Japan	2:41:57
39	岩本竜太郎	JPN	Japan	2:43:27
50	土井 雪広	JPN	Japan	3:03:04

第2ステージ(179.9km)

1	ERLER Tobias	GER	Merida	4:32:50
2	ANDREYEV Mikhail	KAZ	Dinamo	4:32:50
3	福島 康司	JPN	Japan	4:33:21



7	真鍋 和幸	JPN	Japan	4:33:23
7	中川康二郎	JPN	Japan	4:33:23
7	盛 一大	JPN	Japan	4:33:23
47	土井 雪広	JPN	Japan	5:01:00
49	岩本竜太郎	JPN	Japan	5:13:09

第3ステージ(167km)

1	KOTTULA Juergen	GER	Merida	4:57:27
2	WONG Kam Po	HKG	HKG	4:57:27
3	MIZBANI IRANAGH Ghader	IRI	Giant	4:57:33
5	中川康二郎	JPN	Japan	4:58:53
8	真鍋 和幸	JPN	Japan	4:59:01
8	福島 康司	JPN	Japan	4:59:01
29	土井 雪広	JPN	Japan	5:11:59
29	盛 一大	JPN	Japan	5:11:59
	岩本竜太郎	JPN	Japan	DNF

第4ステージ(65.2km)

1	ERLER Tobias	GER	Merida	1:29:01
2	ROUDIER Denis	FRA	Avenir	1:29:01
3	SNEEBOER Paul	NED	B.R.C.	1:29:01
14	盛 一大	JPN	Japan	1:29:04
25	真鍋 和幸	JPN	Japan	1:29:04
26	土井 雪広	JPN	Japan	1:29:04
34	中川康二郎	JPN	Japan	1:29:04
37	福島 康司	JPN	Japan	1:29:04

第5ステージ(133km)

1	ERLER Tobias	GER	Merida	3:28:56
2	福島 康司	JPN	Japan	3:28:56
3	HOLLANDS Edmund	AUS	Giant	3:29:23
4	中川康二郎	JPN	Japan	3:29:23
16	土井 雪広	JPN	Japan	3:40:33
23	真鍋 和幸	JPN	Japan	3:40:33
44	盛 一大	JPN	Japan	3:56:57

第6ステージ(50km)

1	COMPLOI Martin	AUT	Merida	1:19:20
2	真鍋 和幸	JPN	Japan	1:19:20
3	JAGER DE Francis	NED	B.R.C.	1:19:20
9	盛 一大	JPN	Japan	1:20:18
14	土井 雪広	JPN	Japan	1:20:18
40	福島 康司	JPN	Japan	1:20:18

43 中川康二郎 JPN Japan 1:20:18

第7ステージ(113km)

1	MIZBANI IRANAGH Ghader	IRI	Giant	3:20:57
2	CHADWICK Glen	AUS	Giant	3:24:00
3	KAZEMI SARAI Ahad	IRI	Giant	3:24:00
10	真鍋 和幸	JPN	Japan	3:35:10
16	福島 康司	JPN	Japan	3:38:45
17	中川康二郎	JPN	Japan	3:38:45
21	土井 雪広	JPN	Japan	3:41:49
36	盛 一大	JPN	Japan	3:55:48

第8ステージ(75km)

1	COMPLOI Martin	AUT	Merida	1:13:53
2	ERLER Tobias	GER	Merida	1:13:53
3	HOLLANDS Edmund	AUS	Giant	1:13:55
5	真鍋 和幸	JPN	Japan	1:13:55
8	中川康二郎	JPN	Japan	1:13:55
34	福島 康司	JPN	Japan	1:16:17
35	盛 一大	JPN	Japan	1:16:17
42	土井 雪広	JPN	Japan	1:16:17

個人総合成績

1	MIZBANI IRANAGH Ghader	IRI	Giant	23:03:10
2	KOTTULA Juergen	GER	Merida	23:10:36
3	ANDREYEV Mikhail	KAZ	Dinamo	23:12:22
5	福島 康司	JPN	Japan	23:22:44
6	中川康二郎	JPN	Japan	23:22:51
8	真鍋 和幸	JPN	Japan	23:25:06
35	盛 一大	JPN	Japan	24:25:43
42	土井 雪広	JPN	Japan	24:44:04

団体総合成績

1	Giant Asia Racing	69:27:29
2	Merida Germany	69:52:10
3	Dinamo-Alatau Team	70:10:00
4	Japan Team	70:10:47
5	Merida Team	71:23:08
6	Hong Kong, China Team	71:31:16

2003ツール・ド・台湾 日本代表選手団

大会名 2003ツール・ド・台湾
開催場所 チャイニーズ・タイペイ
大会期間 平成15年11月19日～27日
派遣期間 平成15年11月17日～28日
派遣選手団

監督 福田 公生(JCFコーチ)
メカニック 鬼原 積(JCFスタッフ)
マッサー 酒井 修
通訳 中島 麗羽
選手 真鍋 和幸(JPCA・ミヤタパル)
中川康二郎(茨城・ミヤタパル)
福島 康司(JPCA)
土井 雪広(山形・法政大学)
岩本竜太郎(広島・京都産業大)
盛 一大(茨城・日本大学)

参加国 10ヶ国

参加チーム 11チーム

参加者数 56名

完走者数 44名



uci 2003 年世界室内自転車競技選手権



サイクルサッカー

2003年世界室内自転車競技選手権が、11月21日～23日の3日間、フランス西部のストラズブルグ近郊のシルチグハイムで開催された。選手団は、調整のために、まずドイツ南西部にあるガルトリンゲンという小さな町に入り、3日間の合宿を行った。のんびりとした小さな町だが、サイクルサッカーとサイクルフィギュアの世界チャンピオンを出した伝統のあるクラブチームが世話をしてくれ、本当にいい調整ができた。

サイクルサッカーは、グループAに6カ国、グループBには9カ国のエントリーがあった。日本の都築勝巳・松田鋼チームが属するグループBは、5カ国のグループB1と4カ国のグループB2に分かれて行われ、日本チームはユーゴスラビア、香港、マレーシア、ハンガリーと同じグループB1でのスタートとなった。大会初日、朝から一番の試合がユーゴスラビア戦で、最初は固さも見られたが、4:1と確実にものにすると、後は圧勝でグループB1の1位となった。グループB2は昨年度のBリーグにおいて、PK戦の末に日本に勝って、Bリーグを制したルーマニア、昨年3位のアメリカ、昨年5位のクロアチア、今大会が初出場のマカオの4チームのグループで行われた。さすがにマカオはすべての試合で大敗を喫したが、上位3チームは実力伯仲でどこが1位になってもおかしくない内容であった。結果は昨年から進境著しいと思われたクロアチアが僅差の1位で、Bリーグの優勝を賭けて日本チームと戦った。昨年は2位に甘んじた日本チームだったが、昨年は予選リーグでクロアチアには勝っていた。今回も前半でリードし、終始、日本ペースで勝利しグループBの優勝をものにした。グループAとの入れ

替え戦は、この試合を含めたベルギー、フランス、クロアチアの4チームで行われた。結果は、対ベルギー戦が5:2、対フランス戦が6:2で敗れ、今年もAグループの壁を破ることはならなかった。しかし、その壁を破る日か、確実に近づいているように感じられた。今年のグループAで底力を感じたのがチェコとスイスであった。スピードとパワーはもちろんのこと、予選リーグでは見られなかったボールに対する執着心と集中力が、セミファイナルとファイナルでは迫力満点に感じられた。このボールに対する執着心と集中力を身に付けることが、Aグループの壁を破るのに必要な気がする。

サイクルフィギュアは大会二日目の女子シングルに小野寺千春と堀井和名の2名が出場。小野寺は昨年より持ち点を大幅に上げての出場で期待されたが、慎重になりすぎ演技に切れが見られず、268.49pの14位に終わった。本人も満足はしていなかったが、それでも得点と順位はともに毎年よくなり、来年こそは期待したい。堀井のシングル出場には1年間のブランクがあり、得点と順位は不本意な結果ではあった。しかし、ようやく新しい技も入り、演技の内容も良くなってきた。現在の実力は出しえたように思うが、今後の更なる活躍を期待したい。男子ペア競技では、日本から佐浦裕行・芦田史郎のペアが、この種目に初めてエントリーした。二人ともシングルとのダブルエントリーで、この種目の練習に十分な時間



フィギュア女子シングル

がなかったのは否めない。成績も最下位となり、残念な結果であった。ただ、初出場を果たしたことで、今後の日本でのペア競技の普及に繋がることに期待したい。最終日には男子シングル競技が行われ、まず、初出場の芦田が252.85の19位と大健闘だった。初出場を考えると持ち点の277.60pは高く、大きく崩れることがなかった。佐浦選手は270.95の16位で、今までより安定感が感じられた演技だった。ドイツでの調整合宿がよかったのか、ペア競技のエントリーがいい入りハースルになったのか、二人とも現在の実力を十分発揮してくれた。今後も新しい技に挑戦すると同時に、姿勢欠点の矯正も忘れないでほしい。

今回の大会は、サイクルサッカー、サイクルフィギュアともに大きな飛躍は出来なかったものの、選手一人一人の実力は十分発揮できたように思う。ただ、今後の日本チームの活躍を考えると、サイクルフィギュアはもちろんのこと、サイクルサッカーも若い選手の育成を考えなくては行けない。（青戸 公一）

[競技結果]

サイクルフィギュア女子ペア

- | | | | |
|---|-----------------------------|-----|----------|
| 1 | C. Ingelfinger / K. Knaack | ドイ | 293.30 p |
| 2 | N. Wohler / K. Urban | ドイ | 292.43 p |
| 3 | A. Petrickova / I. Valesova | チェコ | 281.17 p |

サイクルフィギュア女子シングル

- | | | | |
|----|--------------------|-----|----------|
| 1 | Ruckaberle Astrid | ドイ | 330.25 p |
| 2 | Hein Corinna | ドイ | 325.89 p |
| 3 | Stepankova Martina | チェコ | 314.39 p |
| 14 | 小野寺千春 | 日本 | 268.49 p |
| 22 | 堀井 和美 | 日本 | 253.54 p |

サイクルフィギュア男子ペア

- | | | | |
|----|-------------------------|-----|----------|
| 1 | S. Altwater / N. Kunert | ドイ | 323.07 p |
| 2 | R. Heiko / R. Michael | ドイ | 309.28 p |
| 3 | Kamil+Petr Bartunek | チェコ | 290.07 p |
| 11 | 佐浦裕行 / 芦田史郎 | 日本 | 221.74 p |

サイクルフィギュア男子シングル

- | | | | |
|----|-----------------|-----|----------|
| 1 | Martin Rominger | ドイ | 345.97 p |
| 2 | Robin Hartmann | ドイ | 335.57 p |
| 3 | Pokorny Arnost | チェコ | 330.07 p |
| 16 | 佐浦 裕行 | 日本 | 270.95 p |
| 19 | 芦田 史郎 | 日本 | 252.85 p |

サイクルサッカー

- | | | |
|---|--------|-------------------------------------|
| 1 | チェコ | Berger Miroslav / Hrdlicka Jiri |
| 2 | スイス | Looser Paudi / Jiricek Peter |
| 3 | オーストリア | Lubetz Andreas / Schneider Reinhard |
| 4 | ドイ | Abel Thomas / Hauser Jens |
| 5 | ベルギー | Budu Christoph / Deuvaert Reinhard |
| 6 | フランス | Maillavin Michel / Marcoux Frédéric |
| 7 | 日本 | 都築 勝巳 / 松田 鋼 |

競技大会 結果

チーム名等については略して記載

第30回北日本地区^ア自転車競技大会 (9/10 宮城自転車競技場)

スプリント

1	伏見 俊昭	福 島
2	榊枝 輝文	福 島
3	竹内 智彦	宮 城
4	佐藤慎太郎	福 島

ケリッ

1	高谷 雅彦	青 森
2	俵 信之	北海道
3	岡部 芳幸	福 島
4	金古 将人	福 島
5	佐藤慎太郎	福 島
6	大内 達也	宮 城

1kmタイムトライアル

1	及川 裕奨	青 森	1:05.73
2	佐々木雄一	福 島	1:05.79
3	小泉 俊也	青 森	1:07.72
4	大槻 寛徳	宮 城	1:08.45
5	谷津田将吾	福 島	1:08.79
6	藤原 義晴	青 森	1:08.87

4km個人追抜競走

1	佐々木孝司	青 森	5:02.47
2	関戸 努	宮 城	5:07.12
3	木村 元信	青 森	5:14.33
4	菅田 和宏	宮 城	5:19.21
5	坂本 毅	秋 田	5:20.83
6	山崎 芳仁	福 島	5:25.23

4km団体追抜競走

1	福 島	松崎・佐藤悦・青森・山崎	4:38.41
2	青 森	佐々木孝・木村・佐々木健・高谷	4:42.03
3	宮城A	高浜・小松・関戸・白木	4:43.46
4	宮城B	佐藤昭・中島・長谷・菅田	4:52.86
5	北海道	野木・鈴木・田原・山田	4:53.12
6	秋 田	高橋・引地・三浦・田村	5:00.61

ホントレース

1	佐藤 友和	青 森	65 p
2	小松 剛之	宮 城	32 p
3	白木 正彦	宮 城	16 p
4	十文字菊雄	福 島	14 p
5	鈴木 健一	福 島	7 p
6	煤賀 隆幸	秋 田	6 p

チームスプリント

1	福 島	岡部・伏見・佐々木雄	1:17.13
2	宮 城	大内・庄子・佐藤正	1:19.03
3	青 森	佐々木省・斉藤紳・及川裕	1:19.73
4	秋 田	小松・佐々木弘・野田	1:20.28
5	北海道	俵・斉藤正・三橋	1:23.93

団体成績

1	福 島	76 p
2	青 森	64 p

3	宮 城	51 p
4	北海道	13 p
5	秋 田	11 p

第30回関東地区^ア自転車競技大会 (10/22 前橋競輪場)

スプリント

1	長塚 智広	茨 城
2	平原 康多	埼 玉
3	山田 英樹	茨 城
4	松岡 慶彦	栃 木

ケリッ

1	小橋 正義	新 潟
2	太田 真一	埼 玉
3	川口 満広	東 京
4	高橋 光宏	群 馬
5	幸田 光博	栃 木
6	小林 潤二	群 馬

1kmタイムトライアル

1	稲村 成浩	群 馬	1:04.693
2	神山雄一郎	栃 木	1:05.357
3	矢口啓一郎	群 馬	1:05.465
4	武田 豊樹	茨 城	1:05.832
5	藤田 竜矢	埼 玉	1:06.221
6	内田 慶	栃 木	1:06.407

4km個人追抜競走

1	飯島 規之	埼 玉	4:48.940
2	五味 実	東 京	4:55.805
3	河野 通孝	茨 城	5:08.018
4	櫻井 学	群 馬	5:08.658

4km団体追抜競走

1	埼 玉	太田耕・飯島規・井上・白岩	4:28.27
2	甲信越	笹川・川村・田村・佐野	4:30.10
3	栃 木	飯嶋剛・鈴木龍・関・阿久津	4:35.02
4	群 馬	田中・手島・内海・堀勝	4:36.55
5	東 京	小林・曽我・宮川・物部	4:36.66
6	茨 城	堀政・落合・小室・根本	DNF

ホントレース

1	都築 章二	東 京	25 p
2	飯田 威文	埼 玉	20 p
3	諸橋 愛	甲信越	12 p
4	菊池 崇訓	栃 木	11 p
5	北村 貴幸	群 馬	7 p
6	稲村 好将	群 馬	7 p

チームスプリント

1	群 馬	稲村・小林・兵藤	1:01.420
2	栃 木	神山・伊藤一・内田	1:02.894
3	埼 玉	太田真・鈴木孝・吉田	1:02.904
4	甲信越	阿部・松本・伊藤大	1:03.291
5	茨 城	大井・十文字・石渡	1:04.180
6	東 京	深井・川村・市川	1:04.902

団体成績

1	埼 玉	42 p
2	群 馬	38 p
3	栃 木	31 p
4	茨 城	29 p
5	東 京	22 p
6	甲信越(新潟・長野・山梨の混成)	18 p

第30回南関東地区^ア自転車競技大会 (10/22 平塚競輪場)

スプリント

1	石橋慎太郎	静 岡
---	-------	-----

2	伊勢崎彰大	千 葉
3	小林 大能	千 葉
4	石川 英昭	静 岡

ケリッ

1	出口 眞浩	神奈川
2	佐々木龍也	神奈川
3	會田 正一	千 葉
4	中井 達郎	静 岡
5	高木 隆弘	神奈川
6	鈴木 誠	千 葉

1kmタイムトライアル

1	萩原 孝之	静 岡	1:05.64
2	川口 直人	神奈川	1:07.15
3	海老根恵太	千 葉	1:07.65
4	片寄 雄己	静 岡	1:07.88
5	三住 博昭	神奈川	1:08.05
5	武井 大介	千 葉	1:08.05

4km個人追抜競走

1	原田 和明	千 葉	4:56.96
2	野井 正紀	神奈川	5:01.44
3	加藤 剛	神奈川	5:03.30
4	木部 孝美	静 岡	5:04.34
5	石井 功二	静 岡	5:23.65
6	鶴岡 興之	千 葉	5:27.49

4km団体追抜競走

1	静 岡	海野・山崎・松江・村本	4:45.11
2	神奈川A	梶山・遠澤・川越・畠山	4:52.67
3	千 葉	大綱・鈴木栄・和田・福森	4:53.37
4	神奈川B	山田・旭・大西・佐藤	5:09.86

ホントレース

雨の為に中止

チームスプリント

1	静 岡	渡邊・丸山・新田	1:19.14
2	千 葉	森下・中村・石井	1:20.22
3	神奈川	川田・近藤・岡崎	1:23.61

第31回中部地区プロ自転車競技大会 (10/22 松阪競輪場)

スプリント

1	金子 貴志	愛 知
2	永井 清史	岐 阜
3	若松 将弘	愛 知
4	小川 将人	愛 知

ケリッ

1	吉田 敏洋	愛 知
2	山口 幸二	岐 阜
3	山口 富生	岐 阜
4	田中 邦輝	三 重
5	小嶋 敬二	富 山
6	山田 裕仁	岐 阜

1kmタイムトライアル

1	田島 浩二	三 重	1:06.685
2	児玉 利文	岐 阜	1:08.288
3	中田 博之	富 山	1:08.334
4	渡会 啓介	愛 知	1:08.718
5	宮越 大	富 山	1:09.001
6	三浦 稔希	愛 知	1:09.629

4km個人追抜競走

1	辻 力	富 山	5:02.66
2	萩原 操	三 重	5:03.64
3	矢部 和彦	三 重	5:14.81
4	松尾 淳	岐 阜	5:17.41

5	山本 晋平	愛知	5:24.48
6	小林 信晴	愛知	5:33.05

4km団体追抜競走

1	富山 坂上忠・北野武・北野大・坂上樹	4:36.78
2	岐阜 加藤・本村・土岐・児玉	4:42.59
3	愛知 疋田・長村・松山・三浦	4:47.41
4	三重 田中・東・坂元・矢部	5:02.00

ホィントレース

1	舩井 幹雄	三重	30 p
2	鱒淵 正利	愛知	19 p
3	岩本 和也	富山	18 p
4	伊藤 嘉浩	岐阜	11 p
5	光岡 義洋	愛知	8 p
6	神田 聖治	三重	5 p

チームリット

1	岐阜 志智・加藤慎・永井	1:16.037
2	愛知 渡会・富永・島野	1:16.208
3	三重 松岡・中津・田島	1:16.416
4	富山 大庭・藤川・中田博	1:19.680

第26回近畿地区7日自転車競技大会
(10/16 奈良競輪場)

スプリント

1	稲垣 裕之	京都
2	松岡 健介	兵庫
3	中澤 央治	大阪
4	筒井 陽一	兵庫

ケリツ

1	渡辺 一貴	滋賀
2	三和 英樹	滋賀
3	古原 勝己	大阪
4	伊藤 保文	京都
5	佐野 梅一	京都
6	杉田 清典	奈良

1kmタイムトライアル

1	村上 義弘	京都	1:05.928
2	渡辺 十夢	福井	1:06.376
3	村上 博幸	京都	1:07.092
4	高城 信雄	兵庫	1:07.334
5	渡辺 航平	福井	1:08.405
6	三木 利則	大阪	1:08.602

4km個人追抜競走

1	久保田 奉文	福井	4:59.109
2	河崎 恵治	京都	4:59.646
3	西岡 正一	和歌山	5:08.098
4	平田 義敬	大阪	5:14.891
5	小林 直宏	奈良	5:18.817
6	西尾 栄治	兵庫	5:26.440

4km団体追抜競走

1	京都 窓場・久米・岩崎・山岸	4:31.977
2	大阪 木本・原田・肥後・藤野	4:32.738
3	福井 林・木村・白崎・重永	4:39.624
4	滋賀 門野・磯野・中村・櫻井	4:40.287
5	奈良 岡田・花房・丸井・杉森	4:41.959
6	和歌山 北浦・千原・東口・石田	4:46.155

ホィントレース

1	窓場加乃敏	京都	20 p
2	四宮 哲朗	京都	20 p
3	鷺田 佳史	福井	19 p
4	千原 洋晋	和歌山	14 p
5	久保田 奉文	福井	10 p
6	肥後 勇志	大阪	7 p

チームリット

1	兵庫 筒井・高城・澤田	1:02.666
2	福井 松山・渡辺十・渡辺航	1:03.728
3	京都 松本・川村・村上	1:03.961
4	大阪 中沢・岡崎・佛田	1:05.015
5	和歌山 岡田・三橋・布井	1:05.331
6	滋賀 中井・長尾・金山	1:05.759

団体成績

1	京都
2	福井
3	大阪
4	兵庫
5	和歌山
6	滋賀

第30回中国地区7日自転車競技大会
(10/29 防府競輪場)

スプリント

1	前反祐一郎	広島
2	西田 雅志	広島
3	石丸 寛之	岡山
4	久富 武	岡山

ケリツ

1	三宅 伸	岡山
2	富 弥昭	山口
3	小林 豊	広島
4	豊田 知之	岡山
5	星島 太	岡山
6	和田 誠吾	広島

1kmタイムトライアル

1	内村 泰三	山口	1:06.41
2	三宅 達也	岡山	1:06.53
3	井上 辰也	岡山	1:07.74
4	吉本 哲郎	広島	1:08.53
5	井山 和裕	山口	1:09.96
6	細川 貴史	広島	1:10.76

4km個人追抜競走

1	中井 健二	岡山	4:52.07
2	工 正信	広島	5:06.57
3	岩津 裕介	岡山	5:09.82
4	長谷川 秀幸	広島	5:11.92
5	山内 清美	山口	5:30.94
6	出見 実成	山口	6:07.98

4km団体追抜競走

1	広島 郡・石田・吉永・大屋	4:43.66
2	岡山 中山・近藤・藤原・新村	4:49.49
3	山口 種田・宮崎・三輪・中村	5:03.13

ホィントレース

1	斉藤 勝	広島	32 p
2	恩地 智明	広島	33 p
3	長谷 俊昭	岡山	15 p
4	原野 裕	山口	13 p
5	山根 泰道	岡山	6 p
6	野里 逸善	広島	1 p

チームリット

1	山口 白井・隅・内村	1:03.95
2	広島 田村・橋村・中石	1:04.92
3	岡山 井上・榊原・柳谷	1:05.08

団体成績

1	広島
2	岡山
3	山口

第30回四国地区7日自転車競技大会
(9/25 観音寺競輪場)

スプリント

1	福田 博	香川
2	小川 圭二	徳島
3	林 明宏	高知
4	大崎飛雄馬	愛媛
5	兒玉慎一郎	香川
6	桜井 健	徳島

ケリツ

1	佐々木 則幸	高知
2	香川 雄介	香川
3	山原 利秀	高知
4	室井 竜二	徳島
5	菊池 仁志	愛媛
6	久米 康隆	徳島

1kmタイムトライアル

1	濱田 浩司	愛媛	1:05.123
2	吉岡 篤志	徳島	1:07.551
3	湊 聖二	徳島	1:07.560
4	池田 周平	高知	1:08.112
5	岡本 大嗣	愛媛	1:08.354
6	吉田 彰久	香川	1:11.038

4km個人追抜競走

1	鳥生 知八	愛媛	追抜勝
2	中澤 昌美	香川	OVT
3	笠松 義輝	愛媛	5:10.38
4	増田 鉄男	徳島	5:14.84
5	安川 勤	香川	5:21.43
6	川口 秀人	徳島	5:28.32

4km団体追抜競走

1	香川 馬場・宮本・近藤・眞鍋	4:36.90
2	愛媛 湊・和田・武田・三好	4:44.22
3	高知 西村・武市・赤松・森岡	4:46.80
4	徳島 室井・青井・米澤・佐竹	4:59.86

チームリット

1	愛媛 渡部・宇根・曾我部	1:15.69
2	徳島 堤・小倉・高原	1:15.76
3	高知 森下・松本・藤原	1:19.35
4	香川 行成・佐々木・大林	1:20.07

第30回九州地区7日自転車競技大会
(9/27 北九州好イドム)

スプリント

1	牧 剛央	福岡
2	上吹越直樹	鹿児島
3	山崎 岳志	佐賀
4	森田 正寿	鹿児島

ケリツ

1	合志 正臣	熊本
2	佐々木 浩三	佐賀
3	吉岡 稔真	福岡A
4	渡辺 隆	大分
5	大竹 慎吾	大分
6	黒田 義高	長崎

1kmタイムトライアル

1	松本 大地	熊本	1:06.386
2	田中 弘章	福岡B	1:06.833
3	富永 昌久	佐賀	1:07.059
4	案浦 攻	福岡A	1:07.645
5	片山 直人	福岡A	1:07.839
6	足立 重満	長崎	1:08.350

(財)日本体育協会公認C級スポーツ指導員養成講習会(後期)

去る11月22日から24日まで標記講習会が静岡県修善寺町の日本サイクルスポーツセンターおよび日本競輪学校において前期講習会に続き開催された。

後期は21名が参加し、実技、指導実習など20時間の講習を受講し専門科目の検定試験に臨んだ。



「2004年アジア自転車競技選手権大会」日本開催決定！

2004年4月9日(金)から16日(金)まで、三重県四日市市にて「第24回アジア自転車競技選手権大会・第11回ジュニア・アジア自転車競技選手権大会」の開催が決定しましたのでお知らせいたします。

大会名称

第24回アジア自転車競技選手権大会

第11回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会

主催

アジア自転車競技連合(ACC)

財団法人日本自転車競技連盟(JCF)

大会期間

ACC総会・理事会：2004年4月8日(木)

ロード・レース：2004年4月9日(金)～11日(日)

トラック・レース：2004年4月13日(火)～16日(金)

会場(三重県・四日市市)

トラックレース：四日市競輪場

ロードレース：水沢地区周回コース

参加予定国数 14ヶ国

	実施種目(予定)	エリート	ジュニア
トラック	男子 スプリント 1kmタイムトライアル ケイリン チームスプリント 個人追抜競走 ポイントレース 団体追抜競走 マディソン エリミネーション		
	女子 スプリント 500mタイムトライアル 個人追抜競走 ポイントレース		
ロード	男子 個人ロードレース 個人タイムトライアル		
	女子 個人ロードレース 個人タイムトライアル		

連盟の動き(11月中旬～12月上旬)

- | | | |
|--------|-------------------------------|-------------------------|
| 11月10日 | 日韓学生対抗自転車競技大会選手団出発 | 於：韓国・全州(帰国 11/14) |
| 11日 | JOCスポーツジャーナリストセミナー | 於：東京・汐留メディアタワー |
| 13日 | 第6回常務理事会 兼 第7回選手強化本部会 | 於：東京・京王閣競輪場会議室 |
| 15日 | 世界室内自転車競技選手権大会選手団出発 | 於：フランス(帰国 11/26) |
| 17日 | ツール・ド・台湾選手団出発 | 於：チャイニーズ・タイペイ(帰国 11/28) |
| 22日 | 平成15年度C級スポーツ指導員養成専門科目後期講習会 | 於：静岡・日本CSC他(～24日) |
| 25日 | 2009年第7回ワールドマスターズゲームズ第2回招致委員会 | 於：滋賀・大津 |
| 28日 | ナショナルチーム強化合宿 | 於：静岡・日本CSC(～12月4日) |
| 12月5日 | 第3回MTB小委員会 | |
| 8日 | 中距離強化合宿 | 於：国立スポーツ科学センター(～9日) |

1月の主な予定

- | | | |
|-------|--------------------|---------------------------|
| 1月10日 | 第1級公認審判員講習会 | 於：千葉・幕張・海外職業訓練協会研修室(～12日) |
| 27日 | ナショナルチーム強化合宿 | 於：オーストラリア・アデレード(～2/3) |
| 31日 | 2004年シクロクロス世界選手権大会 | 於：フランス・ポンシャトー(～2/1) |



シクリスムエコー No.104 2004年1月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>

JCF協賛スポンサー

